

部分隔離工法で簡素化

アスベスト除去

小川テック ミヤデラ 普及へ協議会も

小川テック(東京都江東区、井上隆司社長)とミヤデラ(東京都品川区、宮寺力也社長)はこのほど、アスベスト除去工事を大幅に簡素化、コストダウンを実現する部分隔離アスベスト除去ラッピング工法「まじろ」シリーズを共同開発した。都内での第一号案件として杉並区のマンションで除去施工を完了、有効性や安全性が確認されたことから、本格的な業務展開を開始した。今後は同工法を推進する協議会の設立なども視野に入っており、積極的に提案していく方針だ。

同工法は頑丈な膜によって部分的にアスベストを隔離(ラッピング)し、膜の外部から除去を行うもので、作業員が安全に

作業を行うことができて、従来の全体隔離で行う工法に比べ工程が短縮され、コストダウンも可能になる。除去の範囲や

状態によって異なるが、おおむね従来工法に比べ1〇～2〇％はコスト削減効果があると試算している。

同工法の施工方法は、建物に吹き付けられたアスベストの直近に隔離フィルム「ぶらじろ」を装着。負圧除塵装置を起動、除去空間に負圧を発生させ、フィルム破損によるアスベストの大気飛散を防止する。作業員は隔離フィルムにセットされたグローブを使い、アスベストを除去。工具やホースなどの出し入れは専用の投入口で行い、大気飛散を防止する。除去されたアスベストは密閉状態でセットされた除去袋に格納され搬出される。

作業員は隔離フィルムにセットされたグローブで安全にアスベストを除去



る。

全体隔離では作業員が汚染することから防護器具や洗浄設備が必要となる。

る。しかし、同工法では部分隔離で作業員の汚染がないことから、セキエリテーションやエアシ

▼

ヤワーなどの洗浄設備が不要。また、現場に出入りする度に防護服を取り替える必要もなくなる。安全性やコスト面だけでなく、エレベーターシャフトなど全体隔離の困難な場所での除去にも適しているという。

同工法による除去作業を行うミヤデラの宮寺力也社長は、「この工法が普及すれば、これまでのアスベスト除去工事の通念が覆る。今後は同工法を積極的に提案してい

たい」と話。

また、開発を手掛けた小川テック開発営業部の衛藤武志部長は、「コストや安全面で大きな優位性がある。今後の課題としては、作業員の育成」とする。現在は工事を行うのはミヤデラのみだが、協議会などを設立して広く作業員の育成に乗り出すことも検討している。現在特許も申請中で、今後新工法がどれだけ普及していくか注目される。